

2人で乗り越える、子宮頸がん

1人より、2人。一緒に考えることが、子宮頸がんの予防につながります。

〔お話〕西岡 留美子さん（仮名）
越前市在住、30代。結婚7年目。夫・長女・長男の4人暮らし。3年前に検診で子宮頸がんが見つかり、子宮・卵巣の全摘出手術を受ける。



第1話

今の自分と、これからの私

「この先の人生に、不安を残せない」
道は一つだった。

子宮の入り口に異常が見つかったのは、3年前の年明けすぐのことでした。2人目の育休を終え、半年前に仕事に復帰したばかり。主人に手伝ってもらいながら家事をして、夜中も授乳。疲れがとれないなと思っていましたが、特に不調は感じていませんでした。

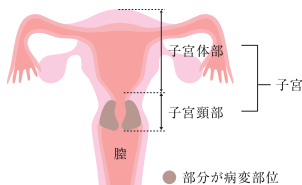
妊娠すると、病院で必ず子宮がん検診を受けます。出産後の1カ月検診も異常なし。ただその後の1年は、一度も検診に行けていませんでした。授乳が終わるタイミングで、子宮頸がんワクチンを受けるついでにお願いしていた検診で、異常が見つかったんです。

精密検査の結果は、子宮頸がん。先生には、子宮と卵巣をすべて取る手術を提案されました。早期なら子宮を残す治療ができます。子宮の一部を切り取り、詳しく調べてから手術する方法も考えましたが、そうなるとお腹を2度も切らなくちゃいけない。帝王切開での出産で、体力的にきついのは想像がつかしました。

若い女性に多い子宮頸がんは、産後に見つかるケースもあるそうです。病院に行く時間がとれない、仕事や家事・育児の疲れを癒す暇がないという話も聞きます。出産後の慌ただしさで、免疫力が落ちているのに、私も自分のことを後まわしにしていました。

主人と知り合い家族になって、ありがたいことに2人の子どもを授かりました。「家族は多いほど賑やかでいいな」。そう思い始めてもいました。検診の結果を聞いてから、ことあるごとに「がん」が頭をよぎります。この頃は、当たり前前に生活ができないほど心が不安定でした。病名がきちんと確定するまでの約1カ月間は、生きた心地のしない、人生で一番辛い日々だったんです。

これから先の家族みんなの人生に、がんへの不安をどうしても持ち込みたくなかった。手術は2月初旬。子宮と卵巣をすべて、摘出しました。2人目の子どもは、まだ1歳半でした。



【子宮頸がん】

20～30代の女性に多い子宮の入り口にできるがん。
初期症状はほとんど無く、検診やセックス時の不正出血で見つかる場合が多い。
セックスで感染するHPV（ヒトパピローマウイルス）が原因。

健康でキレイなわたしに
ふくいキレイ女子大

www.kirei-univ.com [ふくいキレイ女子大](#) [検索](#)

「ふくいキレイ女子大」は、キレイと健康を学べるカリキュラムを展開中です。

□主催／福井新聞社 □後援／福井県、福井県医師会、福井県産婦人科医師連合、福井県看護協会、福井県健康管理協会、福井商工会議所、敦賀商工会議所、武生商工会議所、大野商工会議所、勝山商工会議所、小浜商工会議所、鯖江商工会議所、NPO法人オレンジティ

《お問い合わせ》福井新聞社営業局 kirei-univ@fukuishimbun.co.jp

